

**製品名: FEN1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86490**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000
分子量	Calculated MW:43 kDa; Observed MW:45 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FEN1
別名	MF1; RAD2; FEN-1
遺伝子ID	2237
SwissProt ID	P39748
免疫原	ヒト FEN1 の合成ペプチド

**背景**

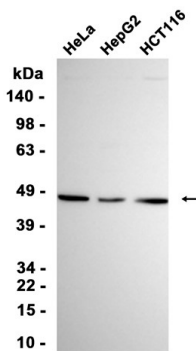
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、DNA修復において5'オーバーハングフラップを除去し、ラギング鎖DNA合成にお

いてオカザキ断片の5'末端を処理する。ロングパッチ塩基除去修復において、このタンパク質と AP エンドヌクレアーゼ 1 は直接的に物理的に相互作用し、基質へのタンパク質の協調的なローディングを実現し、基質をある酵素から別の酵素へと受け渡す。このタンパク質は XPG/RAD2 エンドヌクレアーゼファミリーに属し、遊離 DNA 複製に必須の 10 種類のタンパク質の 1 つである。DNA の二次構造は、この遺伝子によってコードされるタンパク質による結合と切断の両方に必要なフラップの 5'末端を隠蔽することにより、特定のトリヌクレオチド反復におけるフラップ処理を長さ依存的に阻害することができる。したがって、二次構造はこのタンパク質の保護機能を阻害し、部位特異的なトリヌクレオチド伸長を引き起こす可能性がある。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



FEN1 ウサギモノクローナル抗体を 1:3000 で使用して、HeLa、HepG2、HCT116 細胞抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。